



## 熊本震災から2年

# 南阿蘇鉄道のとこれから

崎戸 秀樹



新緑の阿蘇谷を行くトロッコ列車 一般列車は開業以来のMT-2000A形で運行されている(中松～阿蘇白川) 撮影=宮本快暢

2016年(平28)4月14日夜。突如熊本地方を襲った震度7の大地震は九州新幹線を脱線させ、高速道路や熊本城などに多く被害をもたらした。その2日後の4月16日未明には後に「本震」と呼ばれることになった、さらに大きな地震が発生。14日の地震では被害が少なかった阿蘇地区も、断層の活動により地山全体が大きく動くという現象が発生した立野地区で大きな災害が発生した。

JR豊肥本線のスナイバックがある山が大規模崩落し、線路と国道57号を飲み込み、南阿蘇へ分岐する国道の阿蘇大橋が橋脚を支える地盤がずれたことにより崩落。熊本市内と阿蘇地区を結ぶ主要交通網を失い、長らく外輪山を越えなくてはアクセスできない不便な状態が続いた。立野駅



国鉄最初のパラソフア一チ橋として美しい姿を披露していた第一白川橋梁の被災前の姿 地震により全体が大きく変形し架け替えが決まった(※写真は震災前で現在は列車は運行していない)

南阿蘇鉄道提供

を起点とする南阿蘇鉄道(立野～高森間17.7km)は14日の地震で全線運転見合わせが続ぎ、本震が起きた日の16日始発から再開を予定していた。もしも運行再開後、運行時間帯に本震が発生していたらと考えると、とても恐ろしい。

### ■復旧には着工から5年 費用約65～70億円

南阿蘇鉄道の被害状況を簡単にまとめよう。2017年4月に国土交通省が発表した調査結果によると、最も大きな被害は立野に近い犀角山トンネルで、高森側約40mは地震で山ごと動いた影響で約49cmの横ずれと歪みが発生した。鉄道復旧の面では当初、トンネルの変状部分を撤去して坑口をセツトバックする計画が立てられたが、別の事業として斜面全体の防護や河川管理用の道路も必要となり、関係者で工期、費用、安全性を再検討した結果、山の上部を切り取りトンネル自体を撤去することとなった。また、隣接する第一白川橋梁は橋全体が地震により大きく変形し、橋台が最大約40cm移動したため、架け替えが計画されている。そのため復旧には着工時点から最大で5年、費用約65～70億円を要すると判定された。資本金1億、売上高1億1,882万円(2015年度)の鉄道会社が自社だけの努力では成し遂げることが不可能な復旧費用である。





被害は立野～長陽間に集中している 下は戸トトンネルの亀裂 南阿蘇鉄道提供



不通区間の駅で唯一損傷が激しく閉鎖中の温泉施設があった阿蘇下田城ふれあい温泉駅

▶震災前は特殊自動閉塞式(電子符号照査式)であったがスタフ閉塞となり タナレットが利用されているのも興味深いには興味深い 信号機は現在では使われておらず中松駅のスナリツポイントも固定して運行している



高森駅に停車中のトロッコ列車 トロツコは頭上の扇風機にJNRマークがあり この鉄道で唯一の元国鉄車であることを示している 列車には名物ガイドも乗務 車窓は阿蘇の山々に加え新







トロッコ列車からの眺め

思ったが、実際乗ってみるとすごく楽しい。まず阿蘇の美しい山々、きれいな空気を体いっぱいと感じ、マイカーでは味わえないトロッコ列車ならではの体感。素朴だけどこなげか癒される車窓の数々、片道約20分、折り返し時間を含め約1時間の旅はちよよいい。トロッコ列車は当日、高森駅で午前10時から先着受付制だが、震災前に比べて断然利用しやすい状況。

一般車両で運転される列車は、土日を中心にトロッコ列車とともに目玉となっている「がんばれクマモト！ マンガよせがきトレイン」が走る。これは「熊本復興を応援しよう！」と、小学館各誌で活躍する漫画家・原作者117名が描いた応援イラスト色紙を乗せたラッピング列車。作家たちが南阿蘇鉄道・熊本復興へ込めた力強いメッセージを読むだけでも元気になれる。

当初は昨年春から4か月限定の予定であったが、11月30日まで延長され7月22日からは2両体制に。今年も2月17日から11月30日まで運転される。

## ■夜間を利用したイベント列車

通常運行が終了する夕方のダイヤが空いている時間帯を利用し、ヘッドマークつき貸切列車の募集も行っている(現在のところ6月30日まで)。この時間帯を利用して、地元の応援団体などの企画でイベント列車もいくつか運転されていて、そのうち昨年7月の「花火トロッコ列車」と12月の「クリスマストレイン」に乗車した。

「花火トロッコ列車」は、後述の白川水源駅祭で開催された花火大会に合わせて実行委員会が企画したものだ。運行区間は、高森～南阿蘇白川水源間とわずかだが、何と本線上(駅)に花火打ち上げの間トロッコ列車を止め、観覧席にしてしまったもの。滅多に体験できない夜行のトロッコ列車乗車体験も貴重だった。

「クリスマストレイン」は地元応援グループの企画で、列車内にイルミネーションの装飾をして、停車各駅から各駅のオナーナーが特製メニューを積み込んで走るクリスマスパーテイ列車。

どちらもそもそも列車が走らない夜間に乗れる体験だけでも十分に参加価値があったが、赤字になるのでは？と心配になるほど良心的価格設定だった。

## ■テレビCMで聖地化された見晴台駅

2016年、2017年のキリン「午後の紅茶」の冬限定CMでは見晴台駅が舞台となった。とくに、2017年12月21日～2018



南阿蘇鉄道の現在の二大人気列車 マンガよせがきトレインとトロッコ列車 11月末までの週末は主にこの2列車で運行される マンガよせがきトレインは昨年の春に登場した青バージョンと7月から追加されたピンクバージョンの2種がある



昨シーズンのクリスマストレイン 南阿蘇鉄道の応援グループが企画 各駅構内で営業するカフェが協賛し 停車駅ごとに各店手作りのフードやメニューが提供された 南阿蘇鉄道は運行のみ担当 2017年は12月16・25日に運行



年1月31日には販促キャンペーンとしてライトアップ&イルミネーション点灯も実施され、今まで観光客がほとんど訪れる機会がなかった無人駅が、「恋人たちの聖地」として観光スポット化、多くの方が訪問するようになった。南阿蘇鉄道の直接の収入増には繋がるわけではないが、全国へ南阿蘇鉄道をアピールするよい機会となっている。

前述の「マンガよせがきトレイン」を企画した小学館でもコミック誌面で南阿蘇鉄道の特集を企画。キリンも小学館も企業側から支援協力のタイアップ依頼があったそう、全国からのたくさんの方が復興支援に現地へ足を運んでいただけると大きなきっかけとなっている。

## ■楽しさは駅と人

南阿蘇鉄道で非常におもしろいと思うのが各駅。行政が所有する駅舎を地元の方に貸し出し、それぞれ個性的な店舗となっている。各駅のオナーナーはたんなるテナントではなく、管理駅長という肩書きを持ち、駅の管理も行う。こ





キリン「午後の紅茶」のCMロケ地になったことで観光客が多数訪問するようになった見晴台駅。CMに登場した自販機もその後実際に設置された。今年1月31日までキリンの販促キャンペーンとしてライトアップ&イルミネーション点灯も実施された。



▶不通区間にある長陽駅は木造駅舎がそのまま「駅舎カフェ永屋」になっておりホームからの眺めも素晴らしい。▶南阿蘇白川水源駅の「駅cafe倶利伽羅」のオーナー伊藤さん、ロバート馬場さんとともに南阿蘇の食材を探し回り南阿蘇鉄道復興弁当「たっぷり赤牛 牛めし弁当」を開発した。カフェでは「カルデラカレー」が名物だそう。



## ■全線復旧までの道のり

のため不通区間の駅であっても荒廃していない。不通区間で南阿蘇鉄道唯一の木造駅舎を持つ長陽駅も、ホームまで

2017年(平29)12月22日、南阿蘇鉄道の全線復旧費用の一

部を盛り込んだ予算案を政府が閣議決定。いよいよ全線復